

子どもたちに伝えたい！  
仕事に学んだ日本の心

外国人が  
教えてくれた！

# 私が感動した ニッポンの文化

第2巻 こんなに美しい・おいしいなんて！ 高みをめざす職人の巧み

監修 ロバート キャンベル

### 第2巻に登場する人

- デービッド・ブルさん × 木版画
- マニュエル・メンドウイニャさん × 盆栽
- ブライアン・ホワイトヘッドさん × 藍染め
- キム・ハヨンさん × 日本料理
- フィリップ・ハーバーさん × 日本酒
- ユアン・クレイグさん × 陶芸
- カンラス・ウェンティさん × ラーメン

しずおかし ころがい みどり ゆた にほんだいら かいしゃ  
静岡市の郊外、緑の豊かな日本平にある会社で、

ぼんさいしよくにん みなら しゆぎょうちゆう  
盆栽職人の見習いとして修業中のマニユエルさん。

ぼんさい みりよく ひ きび しよくにん みち えら  
盆栽の魅力に引きつけられて、厳しい職人の道を選びました。

にほんどくとく とていせい ど なか  
日本独特の徒弟制度の中で、マニユエルさんは

どんなせいかつをして、なにをめざしているのでしょうか。

profile

しっしんこく  
出身国：スペイン

せいねん  
生年：1983年

しよく  
職業：盆栽職人見習い

しやうかい  
紹介：マニユエル・ジェマード・メンドウイ

ニヤ。5歳のとき、盆栽にめぐり会う。大学で

せいぶつがく、だいがくで造園学を学び、日本に短期

がくして盆栽の研修を受ける。その後ふたたび

にほんを訪れ、「苔聖園」で盆栽

職人見習いとして修業を

つづけている。

こどものころから、ぼんさいには植物本来の美しさだけでなく、すごく芸術的な一面があると感じていました

# マニユエル・メンドウイニヤさん

## × 盆栽

## 盆栽には自然と芸術の両方がある

## 職人には厳しい道が待っている

マニエルさんが生まれたのは、ポルトガルと国境に近いスペインの小さな村です。小さいころから植物が大好きで、森の中で遊んだり、祖母と野菜をつくったりしていました。5歳のとき、おばさんと出かけた町のホームセンターで見つけたきれいな鉢。それがマニエルさんと盆栽との出会いでした。そのときは欲しいといい出せませんでしたが、後で買ってもらったときのうれしさは今でも覚えています。

「子ども心に、盆栽には植物本来の美しさだけでなく、すごく芸術的な一面があると感じていました。祖父は木彫師だったのですが、その仕事にとっても興味があったのです。教わりたいことがたくさんありましたが、わたしが子どものころに亡くなってしまい、それはかないませんでした。幼いころから大好きだった植物と、祖父の仕事だった木彫。自然と芸術の両方に、興味があったんです。盆栽を仕事にしようと思ったのは、それらが混じり合っているからなのかもしれません」

大学院で造園学を学んだマニエルさんでしたが、その後どんな仕事につくか、悩んでいました。そんなとき日本に、外国人に盆栽の体験をさせてくれる会社があることを知り、ショートステイで研修を受けてみることにしました。

「盆栽は日本生まれのものだということは知っていても、日本語はもちろん、日本についての知識はほとんどありませんでした。成田空港から東京に入ると、カラフルな町並みとにぎやかな大通りに心底おどろきました。まるでちがう星にやってきたようでした」

日本で目にする盆栽、それにその技術は、思った以上にすばらしいものでした。滞在期間が終わるとき、マニエルさんはここで盆栽の仕事がしたいと申し出ました。すると親方は、険しい顔でいいました。

「今日までの経験は、きっと楽しかったと思います。しかし、職人になるということはとても大変なことです。わたしは、盆栽の技術は厳しい徒

発見!  
ニッポン

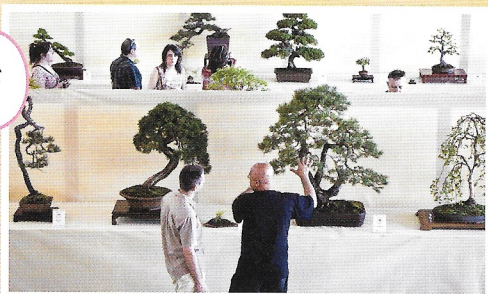
## 海外で大人気の盆栽

盆栽とは、おもに樹木を小さな鉢に植えて、自然の中に実際の木が立っているように再現することで、大自然の姿を感じとる、一種の芸術作品です。そこでは四季折々の変化や、自然の移り変わりを味わうことができるのです。

盆栽は、平安時代、中国から伝えられた「盆景」が始まりだといわれています。江戸時代には、高尚な趣味として武士の間で広まり、「盆栽」とよばれるようになりました。日本独自の文化として育まれてきましたが、高度経済成長のころから日本人の生活様式が変化し、愛好家の数は減る傾向にありました。

近年、ヨーロッパをはじめ、アメリカ、韓国、中国など、海外で盆栽の人氣が高まってきました。「BONSAI」は日本語がそのまま英語になっており、4年に一度世界大会が開かれるほか、あちこちで展示会やワークショップなどのイベントが行われています。またイタリアには、盆栽の大学や美術館もあります。

海外でこんなに人氣があるなんて!



2012年、ポーランドで開催された国際博覧会。東京オリンピックや、1970年の日本万国博覧会が、海外での盆栽ブームの大きなきっかけとなりました。



弟制度の中で身につけるものだと思っています。わたしは親方、あなたは弟子になるのです。今日までのようなつきあい方ではなくなります。それに耐えられますか？」

それでも、一度帰国したマニエルさんは家族の反対を押しきって、盆栽職人の見習いとして、ふたたび日本にやってきました。2012年の春のことでした。

## マニエルさんの長い1日

盆栽職人の弟子となったマニエルさんの1日は忙しいものです。朝7時半に出勤すると、配達されている新聞を取りこみ、会社の前の道路、作業場、キッチン、トイレの掃除をします。よごれていなくても掃除は欠かさない、それが決まりです。親方が出勤する時間までには全て終わってなければなりません。また、商品である盆栽でいっぱいになっている庭の草むしり、地面に落ちた枝や葉の片づけ、これも弟子の日課です。さらに、来客にはきちんとあいさつし、お茶も入れます。徒弟制度の基本は掃除とあいさつなのです。

盆栽職人としての仕事の始まりは9時30分。お客さんから預かった盆栽の手入れや作品づくりなど、ランチの1時間をはさんで仕事は午後7時までですが、9時過ぎになることもめずらしくあ

## 作品じまん

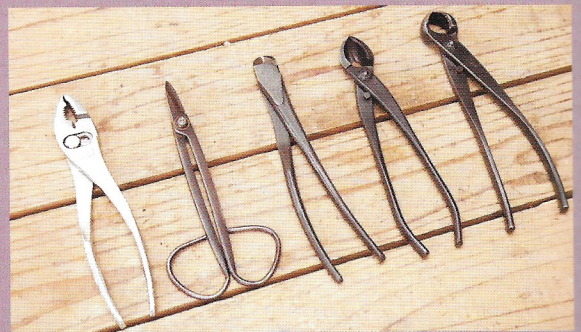
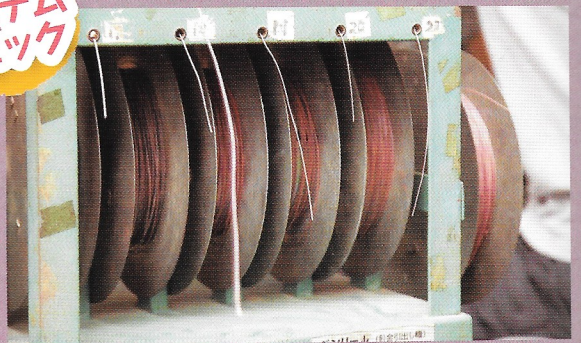


小さいときにスペインで大事にしていた盆栽。子どもながら、工夫をこらして手入れをしていました。

しっかりと  
はりかね  
針金が巻かれて  
いるね



## アイテム チェック



松は銅線、雑木はアルミ線など、植物に合わせ、いろいろな種類や太さの針金を使います。また、枝、幹、根などの切る場所や、曲げる、切るなどの針金の扱い方によって、はさみも使い分けるのです。盆栽の世界では、外国でもはさみを“HASAMI”といいます。

りません。時間がかかっても納得がいくまでやる、それがマニエルさんのやり方です。

仕事も、親方がいてねいに教えてくれるわけはありません。見て覚える、自分で気づく、それが基本です。そして、お小遣い以外に給料はありません。徒弟制度とは厳しいものです。でも、楽しい毎日だ、とマニエルさんはいいます。

「スペインでは、お昼休みが長くて、のんびりできましたが、ここでは1時間だけです。慣れないうちは大変で、ホームシックになったこともありましたが、でも今は大丈夫。とにかく盆栽が大好きで、もっと覚えたいこと、やってみたいことがたくさんあるのです」

親方は、弟子の働きぶりを1、2か月みると、見込みがあるかどうかわかるのだそうです。マニエルさんは親方の眼鏡にかない、「職人の素質あり」と認められたのです。

感性かんせいと技術ぎじゆつの両方りやうほうが大切たいせつ

盆栽ぼんさいにはいろいろな技術ぎじゆつがあります。そのひとつに、「針金はりかねかけ」があります。木の枝えだに針金はりかねを巻くことで、短い期間まじかで木の形かたちを整える作業さぎょうです。それによって、「古さふるさ」を感じかんさせる盆栽ぼんさいに仕立しだてるのです。日本の文化ぶんかの中でも、「質素しつそさ」「古ふるさ」は、「わび」「さび」として大切たいせつにされています。その「古さふるさ」は、盆栽ぼんさいには欠かせないものです。時間じかんが経たつのをただ待つばかりではなく、自らつくり出すことも、盆栽ぼんさいの重要な技術ぎじゆつなのです。

まず、針金はりかねをかける前に木の形かたちをよく見て、将来しやうらいこういう形かたちの木きにしたい、ここに枝えだをこう伸ばしたい、という構想こうそうをまとめます。それから作業さぎょうに入いります。枝えだを曲まげて針金はりかねをかけることで、自分じぶんが思った形かたちに近づけることができます。また、あまり伸ばしたくない芽めや枝えだに針金はりかねをかけると、成長せいちょうを抑えることもできるのです。

そして時間じかんが経たって、樹皮じゆひに針金はりかねが少し食くい込むようになったら、針金はりかねを取りはずします。形かたちが

仕事の心意気しごとのかんいき

修業しゆぎやうは大変たいへんですが、いやになることはありません。学生がくせいと弟子でしは、そもそもちがうものだと思っています。何なにより、盆栽ぼんさいを好きすきだという気持ちきもちが、わたしを強くつよく支さえてくれているのです。

きれいに決きまらないときは、ふたたび針金はりかねをかけ直なおします。針金はりかねによって木きがいたむのを防ふせぐために、前まえにかけたところに重かさならないように針金はりかねを巻まかなくてははいけません。自分の思しった形かたちにするという芸術げいじゆつ的な感性かんせい、木きをいためないよう正確せいかくに作業さぎょうを行う技術ぎじゆつ、その両方りやうほうが必要です。



① 手入れしゆちゆうに集中しゆうしゆうするマニエルさん。しやうらいの形かたちを想像そうざうしながら、葉はを整ととのえています。  
② 針金はりかねかけでつけられた跡あと。

発見はっけん!  
ニッポン

盆栽ぼんさいの種しゆ類るい

しょうはくぼんさい  
松柏盆栽



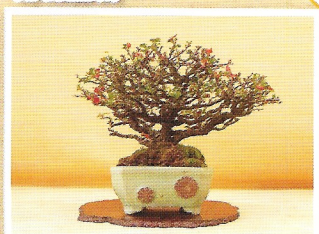
マツなどの常緑樹じやうりよくじゆの盆栽ぼんさい。力強ちからつよさが魅力みちりきです。

そうきぼんさい  
雑木盆栽



カエデなど紅葉こうようする木きの盆栽ぼんさい。四季しきの变化へんかが楽しめます。

はななのぼんさい  
花物盆栽



ウメなど花はなの咲く木きの盆栽ぼんさい。

みものぼんさい  
実物盆栽



カリンなど実みのなる木きの盆栽ぼんさい。

くさきのぼんさい  
草物盆栽



樹木じゆもくではなく、多年草たねんそう・一年草いちねんそう・球根きうこんでつくられる盆栽ぼんさい。

こんなに種しゆるい類るいがあるなんて知らなかった!



盆栽ぼんさいは、木きの種しゆるい類るいによって大きく5つおおに分類ぶんるいすることができます。また、樹木じゆもくの高たかさによって小品しょうひん(20センチ以下)、中品ちゆうひん(20～60センチ)、大品だいひん(60センチ以上)に分わけられます。2000年ねんごろから、小品しょうひん盆栽ぼんさいよりもさらに小ちいさい、手てのひらサイズさいずの「ミニ盆栽ぼんさい」も登場てがしました。その手軽てがるさとかわいらしさから、若い人わかひとたちを中心ちゆうしんに人気にんきが高たかまっています。

## 気分転換も自然の中で

盆栽職人の仕事には、気を抜くひまがありません。盆栽は、白天たりと風通しがいいところに置き、夜露に当てる必要があります。そのため屋外の、地面から80センチくらいの高さの台に置きます。台風などで天気が荒れる前には、被害を避けるためにすべての鉢を地面に下ろさなくてはなりません。これはかなりの重労働です。

水やりの回数も、鉢の大きさだけでなく、植物の生育の様子、季節によって調節します。必要に応じて、肥料も与えます。木の形を整えるために、枝を切ったり葉を摘んだりもします。年数が経ったら、鉢の土の通気性をよくするために、鉢替えも行わなければなりません。病気や害虫にも注意が必要です。

生き物相手の仕事ですから、あらゆることに気配りをしなければなりません。マニユエルさんはいつ、息抜きをしているのでしょうか。

「わたしは修業の身ですから、原則的に休日はありません。でも、月に1、2回は休みをもらい

ます。天気のいいときには、自転車で出かけるんです。今いる日本平の景色も好きですが、三保の松原\*1もお気に入りの場所です。植物相手の毎日ですが、それでもやはり、自然の多い場所に足が向きますね。そういう場所に行くと、幸せな気持ちになりますから」

手つかずの大自然に囲まれてリフレッシュすることで、マニユエルさんはふたたび、小さな盆栽への意欲をかきたてるのでしょうか。

## 仲間じまん

とても絆が  
深そうね



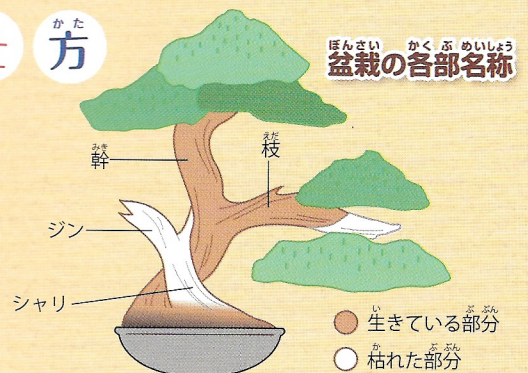
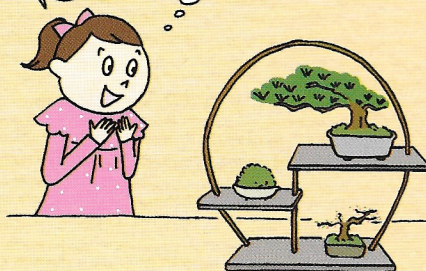
「苔聖園」の親方、漆畑信市さん。現在は息子さんが師匠となり、マニユエルさんを指導しています。

## 発見! ニッポン

## 盆栽の鑑賞の仕方

床の間に盆栽を飾るときには、主となるマツの盆栽のそばに、しばしば小さな「草物盆栽」が飾られます。これによって季節感も出て、空間にアクセントが付き、床の間の美しさが引き立ちます。マツの一枝は雲にも例えられます。床の間という空に浮かぶ雲です。小さくても大きさが感じられるもの、自然よりも自然らしく感じられるものが、美しいとされているのです。

すてき!



さらに、木の様子も楽しみましょう。力強さを感じさせる盛り上がった根、木の大きさを感じさせるがっしりとした幹、盆栽の輪郭ともいえる枝、季節によって印象が変わる葉など、美しさを感じるポイントはいくつもあります。また、「ジン」とよばれる枯れた枝先や、「シャリ」とよばれる枯れた幹は、緑の葉とのコントラストを楽しませてくれます。

\*1 三保の松原…静岡県静岡市清水区の三保半島にあり、富士山が見える松林で有名。その美しい景観から、富士山の構成資産のひとつとして2013年にユネスコ世界文化遺産に登録された。

## 自分にしかできない作品をつくりたい

職人の修業はお礼奉公の1年をふくめて最低5年という事です。ようやくその半分を終えたマニエルさん。修業期間を終えたら、どんなことに挑戦するのでしょうか。

「スペインに帰って、盆栽を教えて、そのすばらしさを伝えていきたいと思っています。そして、ヨーロッパ各地で行われる盆栽フェアなどで、デモンストレーションを披露できればうれしいです」

スペインには、マニエルさんを応援してくれている、家族と婚約者が待っています。一度だけ、婚約者が会いに来てくれたこともありましたが、恋人は修業の妨げだ、と親方に注意されました。あとの2年半は、盆栽一筋で修業に専念しなければなりません。

ばなりません。

マニエルさんには、ほかにも夢があります。

「今は、お客さんの盆栽をお預かりして手入れをする仕事が多いのです。自分が手を入れた盆栽を、お客さんに気に入ってもらえるのはとてもうれしいのですが、手元から離れるのはちょっとさびしい。だから自分のために、自分らしさを表現した作品をつくるのが夢です。それも種やさし木から育てた木を使って、長い時間をかけた、完成度の高い作品を、です。名前もつけたいですね」

盆栽の生まれた国で、本格的な修業をつんだスペイン生まれの職人は、彼の感じた日本の文化を、どのように伝えていくのでしょうか。マニエルさんは、ヨーロッパ全土を舞台に、盆栽の教室を開こうと意気込んでいます。

もっと教えて!

## マニエルさん

Q 日本語で好きな言葉は何ですか?

A 「忍耐」です。自分が目指しているものは、簡単に到達できるものではありません。我慢して、一つひとつ身につけていくことが大事だと思っています

Q 日本人の好きなところを教えてください

A みんなで助け合うところ。例えば、スペインでは自分の仕事が終われば、ほかの人のことを気にせず帰ってしまいます。しかし日本では、忙しい人がいれば手伝う。それも、当たり前のように自然にやっている。すばらしいことだと思います

Q 日本で暮らしていて大変だと思うことは何ですか?

A 何でも「早い」ことです。仕事もていねいであればいいというだけではなく、スピードが要求されます。日常生活もみんな、忙しい。ときどき疲れてしまうことがあります。わたしがのんびり屋なのかなあ……

Q 子どもたちに伝えたいことはありますか?

A 盆栽は日本で生まれた文化であり、芸術です。でも、外国に比べて盆栽に興味をもつ若い人が少ないのは残念です。将来、日本から盆栽がなくなってしまうのではないかと心配になることがあります。自分の国の伝統文化や芸術に目を向け、大事にしてほしいと思います

